

平成27年度(第59期)決算説明資料

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)



平成28年6月30日

<目次>

1. 連結決算の概況

(1) 損益計算書、貸借対照表の概略	2
(2) 事業の取り組み内容について	3
(3) 売上高および営業利益の推移	4
(4) 品目別売上高の推移	5
(5) 収益関連指標	6
(6) 総資産・純資産	7
(7) 配当政策	8

2. 今後の取り組みについて

(1) 経営環境	9
(2) 諸施策	10
(3) 業績の見通し(連結)	11

1. 連結決算の概況

(1) 損益計算書、貸借対照表の概略

(単位:百万円)

	H27/3期	H28/3期	前期比(%)
売上高	13,443	13,383	99.6
営業利益	467	526	112.5
経常利益	544	613	112.6
当期純利益	411	663	161.3

(単位:百万円)

	H27/3期	H28/3期	前期比(%)
資産	12,986	13,867	106.8
負債	6,431	6,891	107.1
純資産	6,555	6,976	106.4
負債純資産	12,986	13,867	106.8

2

(3) 事業の取り組み内容について

・ 営業

- ・ プレミアム効率モータの拡販や、プレミアム効率モータを採用したポンプの量産を行い、新規受注に向けた営業活動を推進
- ・ マイクロバブル発生装置などのユニット製品の拡販を行う。

・ 製造、購買

- ・ 新生産管理システムの構築により、生産効率を高めていく。
- ・ 鉄鋼材や非鉄金属、原油価格が大きく変動する中で、グローバルな部材の調達や国内外の生産拠点の最適化を行い、トータルコストの削減を図る。

・ 研究開発

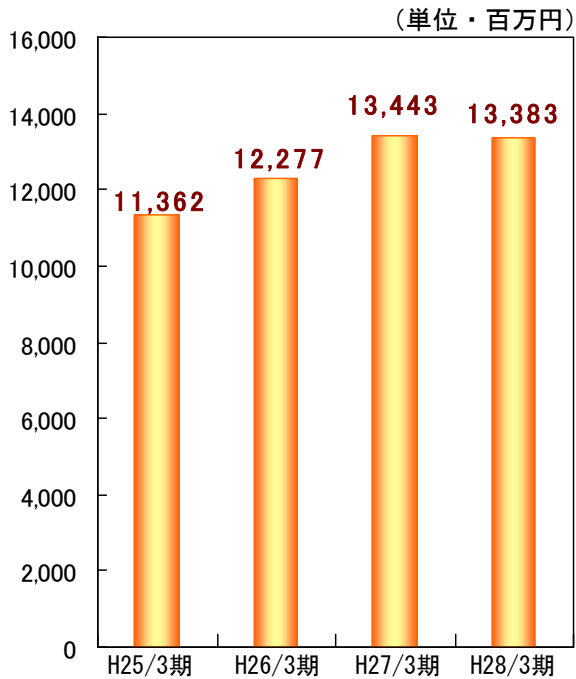
- ・ 環境にやさしい省エネ、低騒音の製品を開発
(IE3(プレミアム効率)対応の高効率モータ 他)
- ・ 新規用途に対応した製品開発(建設機械、医療器具 他)

3

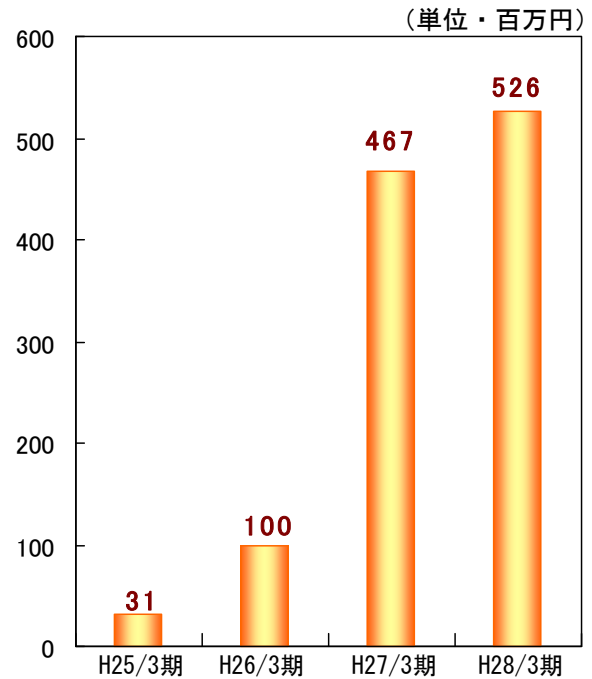
(3) 売上高および営業利益の推移

- ・売上高において、企業の設備投資が底堅く推移したことで、半導体製造装置用ポンプや工作機械装置用モータなどでは受注は堅調に推移した。
- ・営業利益においては、新製品による収益改善効果があったものの、円安による輸入材の高騰がコストを押し上げる要因となり、引き続き厳しい経営環境が続く。

【売上高】



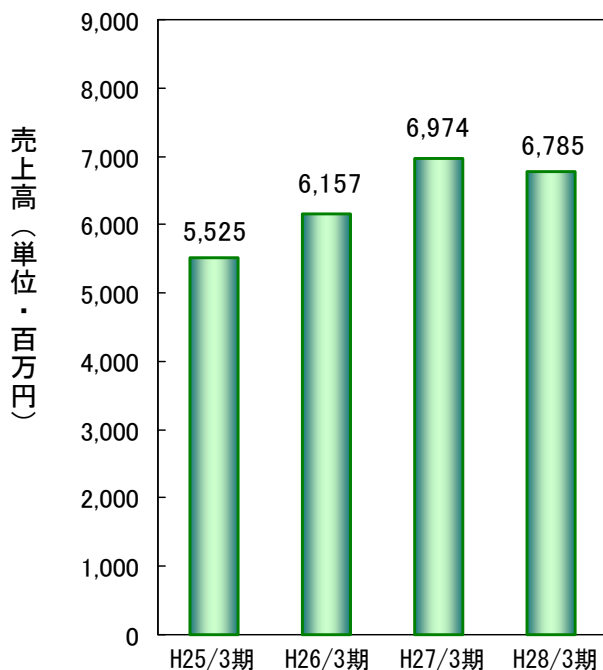
【営業利益】



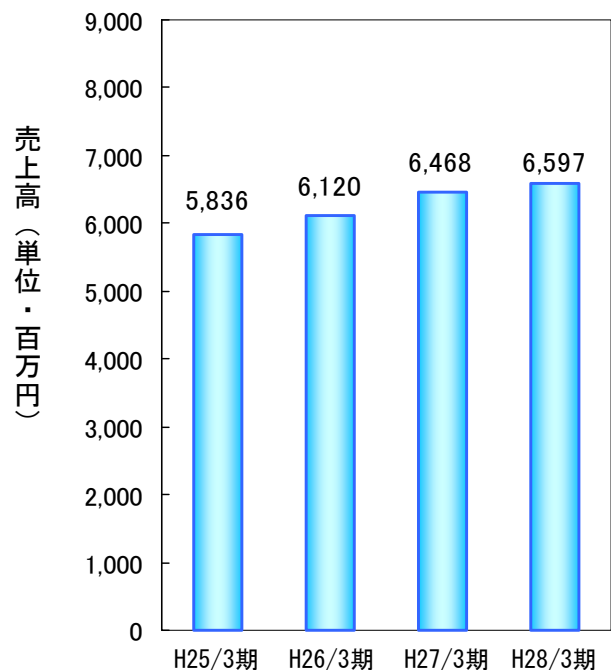
(4) 品目別売上高の推移

- ・モータでは、平成27年4月より「トップランナー規制」がスタート。駆け込み需要による影響を受け受注が減少する。
- ・ポンプでは、循環用ポンプや半導体製造装置用ポンプなどの受注が増加する。

【モータ】

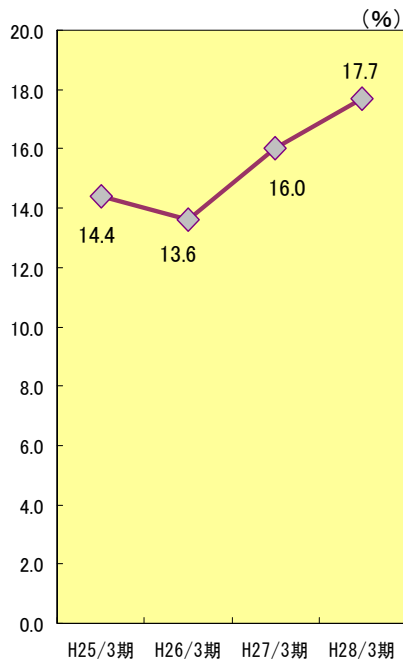


【ポンプ】

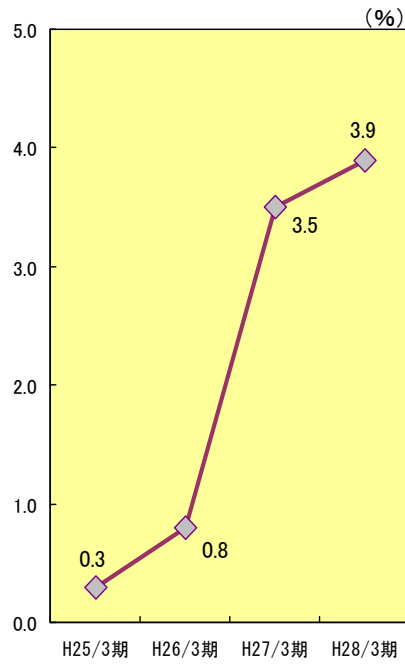


(5) 収益関連指標

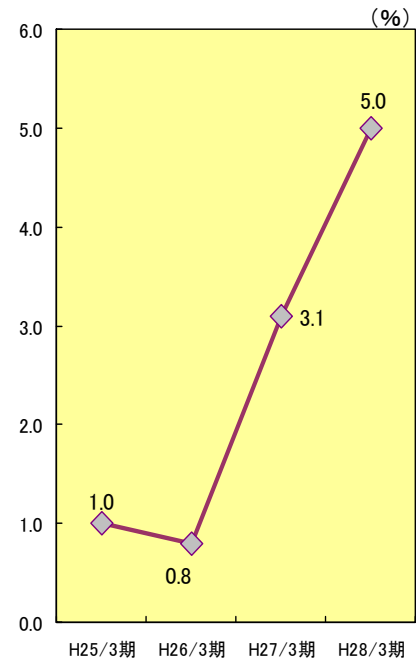
■ 売上総利益(率)



■ 営業利益(率)



■ 当期純利益(率)

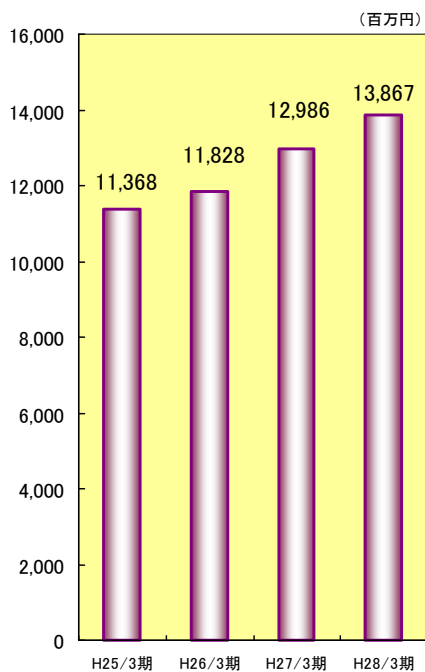


6

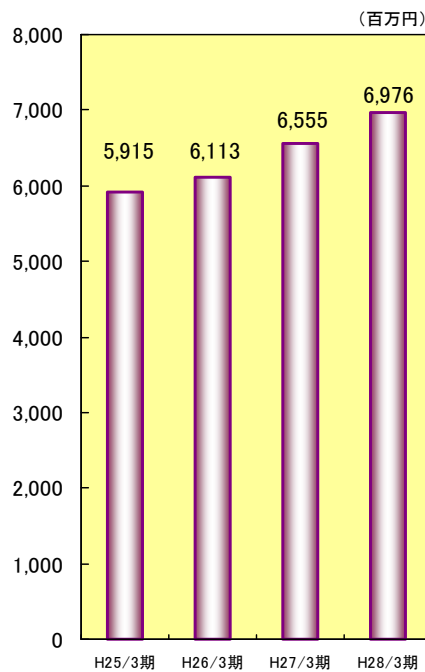
(6) 総資産・純資産

- ・ 資産は主に現金及び預金が増加。
- ・ 負債は主に長期借入金が増加。
- ・ 純資産は株主資本の利益剰余金が増加。

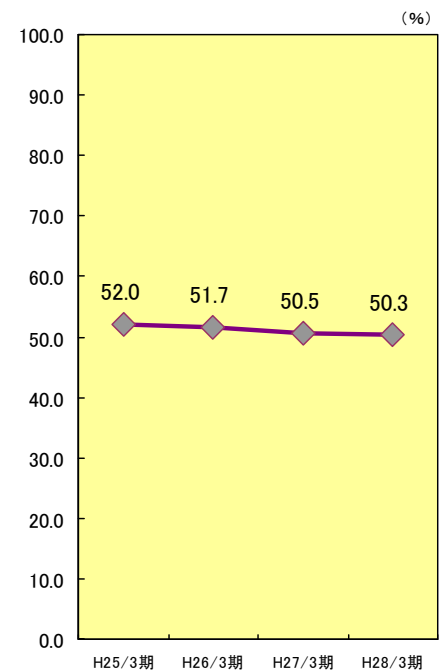
■ 総資産



■ 純資産



■ 自己資本比率

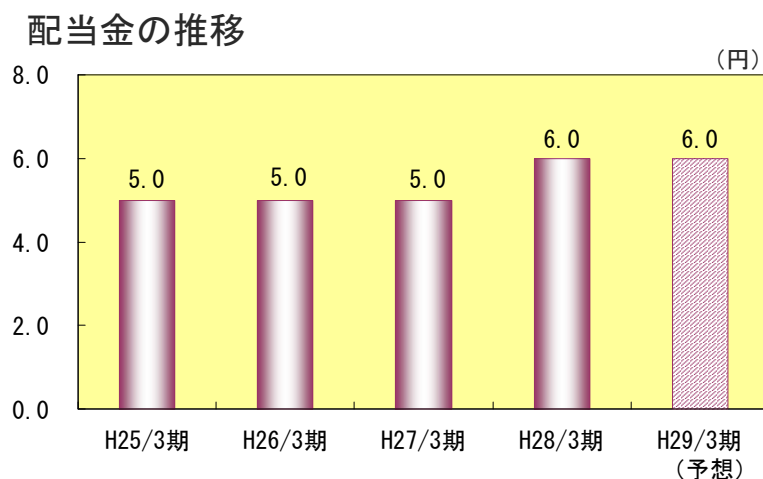


7

(7) 配当政策

利益配分につきましては、株主様および一般投資家様への企業責任の重大性を十分に認識し、業績を勘案して安定配当の確保と継続を基本とするとともに、グループが成長するための有効投資および財務体質の強化に取り組んでまいります。

平成28年3月期の配当については、1株につき期末配当金6円00銭とさせていただきます。
次期の配当につきましても、1株につき年6円00銭を予定しております。
今後更に、業績を向上させ安定的な配当と配当性向の向上に努めてまいります。



8

2. 今後の取り組みについて

(1) 経営環境

◆ 経済状況

- ・ 海外経済の減速影響を受け、企業の現況には足踏みが見られ、足元の円安水準が持続すれば、企業業績の下振れリスクが想定され、依然として楽観視できない状況が続くものと考えられる。

◆ 業界動向

- ・ 家電業界では、円安による輸出増加の期待がもたれるが、世界経済の低迷により大幅な需要増加は見込まれない。
- ・ 工作機械装置業界では、低調であった企業の設備投資意欲が明るさを取り戻し、堅調な受注状況が続くものと期待される。
- ・ 住宅設備関連業界では、消費増税後から建設需要は低調であるが、リフォーム物件などで徐々に需要は回復するものと考えられる。
- ・ 半導体製造設備業界では、市場は堅調に推移することが予想される。

9

(2) 諸施策

・ 営業

- ・ 当社グループの優位性がある、高効率で低消費電力のモータやポンプを中心に拡販を進めていく。
- ・ グローバルな顧客創出活動と、新規用途の提案で新市場を開拓していく。

・ 製造、購買

- ・ 新生産管理システムの運用により、短納期生産体制の確立を図り、顧客ニーズに応える。
- ・ 部材の共通化を進めるとともに、グローバルな部品調達によりコストダウンを図る。

・ 研究開発

- ・ 低消費電力のDC(直流)モータおよびポンプのバリエーションを増やし、市場ニーズや新たな用途に応える。
- ・ 国際規格(IE3)に適合した高効率モータのシリーズ化を進め、既存市場での優位性を高める。

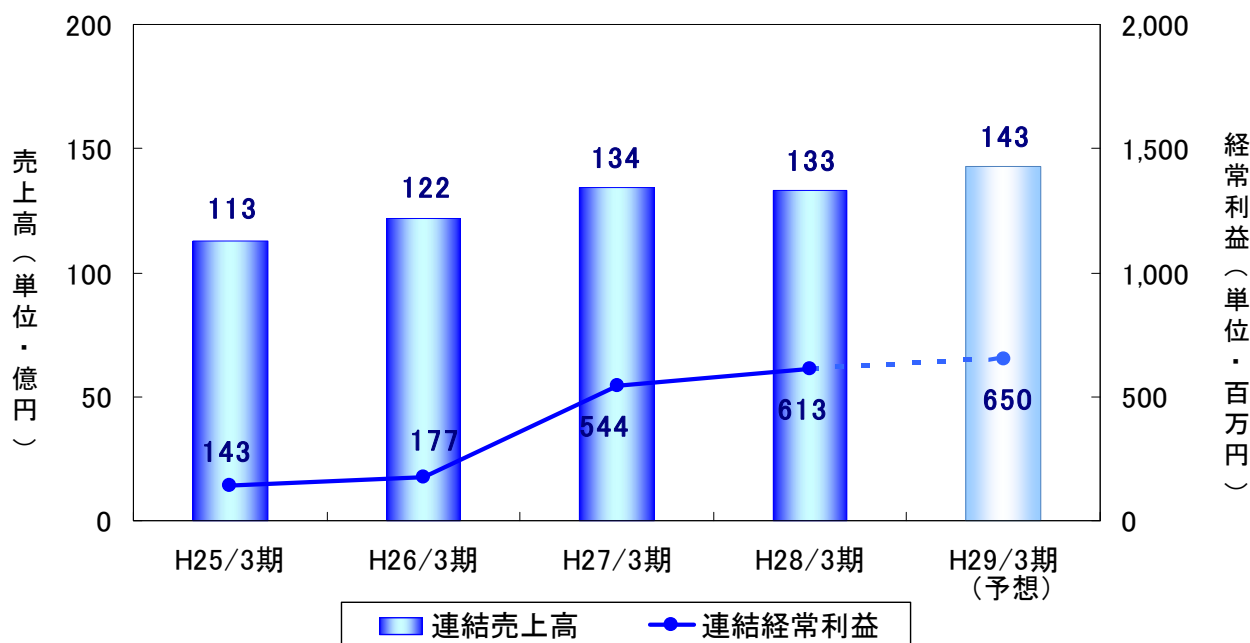
・ 品質

- ・ 製造技術を極め、均一したクオリティの製品を提供する。
- ・ 受入検査の厳格化により組立部門への不適合部品の混入を防ぎ、品質効率を高めていく。

10

(3) 業績の見通し(連結)

[売上高・経常利益のグラフ]



連結：売上高については、株式会社岩谷電機製作所の全株式を取得し、新規連結子会社にしたことで生産・販売の効率化を図り増収を見込む。
利益面については、円安による輸入品のコストアップを販売価格に徐々に転嫁できるものと考えられる。またコストダウンの推進により増益を見込む。

11

おことわり

この資料に掲載しております将来の計画や予想数値については、現在（平成28年6月）入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであり、実績の業績などは、今後の様々な条件・要素によりここに掲載する内容と異なる場合がございます。

なお、この資料は、その実績を確約および保証するものではありませんのでご了承ください。

お問い合わせ先

三相電機株式会社
統括管理部経営企画課

〒671-2288

兵庫県姫路市青山北一丁目1番1号

TEL 079-266-1200

FAX 079-266-1206

E-mail sanso@sanso-elec.co.jp